

## 意見交換会報告書

開催日時	令和6年2月14日（水）午後6時30分 終了：午後8時0分	
開催場所	白山商工会（バードハミング鳥越別館2階 和室）	
対象団体	白山商工会青年部	
参加人数	4人	
班構成	C班	上田良治、山口俊哉、吉本史宏、澤田昌幸、北嶋章光、寺越和洋
役割分担	司会：吉本史宏 挨拶：寺越和洋（開会）、北嶋章光（閉会）	

### 意見交換会テーマ「白山ろくの現状と課題について」

#### A班（寺越、北嶋、吉本）

- ・空き家に移住してきても、住民に簡単に受け入れられない。
- ・移住者は人との付き合いを避ける傾向があり、地域との付き合いがない。また、地域の行事などに人を出さない。白山商工会青年部として説得したが、メリットが薄いと言われた。
- ・雪で子供の通学や通勤に問題がある。
- ・道路の除雪は行き届いておりきれいだが、家の前の路地の排雪に困っている。
- ・鳥越・河内は金沢市に近く、団地も住みやすいように見えるが、金沢市に近いファミリー鳥越でも一冬ごとに住人が変わっている。
- ・移住者の考えは、定年で第二の人生を送るため、地域起こしや起業、ふるさと回帰のおおむね3通りの傾向が見られる。
- ・若者の移住や定住には住宅を建設する必要がある。ミニ宅地開発が必要だ。
- ・農業をしているが、鳥獣害で苦勞している。猿は人に慣れて怖がらなくなっており、追い払いでは効果は薄く、米を食べるようになり被害が拡大している。米の味を覚えさせないよう水田を二回耕しており、そのための燃料代など経費がかかる。
- ・兼業農家がなくなっており、白山ろくの農業後継者が減少している。用水路の維持管理や修繕をするにも事業の補助金制度はあるが労働力不足で仕事が出来ない。
- ・世界ジオパーク認定で、ポケットパークに多くの車が止まるようになった。半面、地元の気運の盛り上がりは薄れてきている。
- ・ほかの市町の道の駅では、地元の住みやすさを分かりやすく宣伝している。白山市の道の駅は地元のPRが上手くない
- ・近年は有機栽培が必要だが、作れば作るほど赤字となる。有機肥料も高騰しているので補助金制度があればよい。

#### B班（澤田、山口、上田）

- ・白山ろくの人口減少が止まらない。鳥越中の入学が新年度に10名となって少子化が止まらない。
- ・移住を考えたとき空き家の活用が重要だが、登録が少なく選択肢が限られる。

- 空き家バンクの登録数が少ない理由に生活ごみが残されていることや、片付けに費用がかかることがある。
- 空き家に移住を検討している人も状況写真や現地を見たときに、ゴミの片付けを考えると再考してしまう。生活ごみの処分補助制度があればよい。
- 白山ろくでは仕事が少なく起業がキーポイントとなる。
- 七尾市や加賀市では行政とタイアップして民間が空き家の維持管理を支援している。
- 道の駅などを活用して白山ろくの定住支援策の宣伝を行ってほしい。また、若者の移住にはミニ宅地開発が必要だ。
- 白山ろくを観光エリアと考えるのであれば、土日の交通手段の整備が重要だ。
- 起業支援策制度の事後でも利用可能となったことはよかった。
- 世界ジオパーク認定を受けて、世界遺産とのコラボなど、県をまたいだ環白山地域のさらなる連携強化を図る必要がある。
- 白山ろくには四季折々の景色や芸能文化がある。樹木に冠雪する景色は見応えがあり、報恩講料理（輪島漆器の御膳）でもてなしイベントも開催している。
- 早朝に堅豆腐の製造過程を体験し、出来たての豆腐を朝食で食べるツアーなど観光資源は豊富にある。
- 空き家に住んで野菜作りなどをしたくても、猿・イノシシの鳥獣害対策で諦める人がいる。
- 吉野工芸の里の老朽化がひどく、トイレの位置も問題がある。早期の再整備に取り組んでほしい。
- 一里野温泉にお湯が来なくなって3年が過ぎようとしている。観光客も減少しているので早期に復旧させてほしい。

備 考	
-----	--